

中等教育での多言語教育の発展を目指して

—日仏高校交流 Colibri 報告・多言語 e-Learning ワークショップ—

Comment développer l'enseignement multilingue dans le secondaire au Japon?

—Le réseau Colibri des lycées franco-japonais et l'e-Learning multilingue—

櫻木 千尋・山崎 吉朗

Lycée Caritas / l'Institut d'éducation d'enseignement privé au Japon

sakuragic?caritas.ed.jp / yamazaki?shigaku.or.jp

日本では、英語教育＝外国語教育という考え方が年々強まり、中学・高校での外国語＝英語、新たに導入される小学校の外国語活動＝英語という風に外国語教育が総て英語教育に置き換えられ、誤った報道がなされているのが現状である。最近では、新しい高校学習指導要領の「外国語」に、「授業は英語で行うことを基本とする」という記述が加わり、マスコミの大きな話題になっているのは記憶に新しいところである。しかし、数は多くないものの、英語以外の外国語を学習する学校の数は増えて来ており、その意義を唱える識者は決して少なくない。

そこで、このアトリエでは、「多言語教育の発展を目指して」というテーマのもとに、以下の3つの項目を扱った。

1. 中等教育における英語以外の外国語についての現状
2. 日仏高等学校ネットワーク Colibri の現状報告
3. 多言語環境 e-Learning の推進についての報告

1. 中等教育における英語以外の外国語についての現状

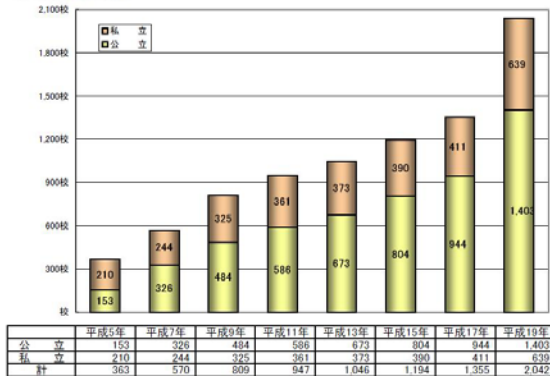
一昨年秋に文科省から、「平成18年度高等学校等における国際交流等の状況について」が発表され、項目の8に「英語以外の外国語の開設について（平成19年5月1日現在）」がある。下記の文科省のwebでダウンロード可能である。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/11/07103102.htm

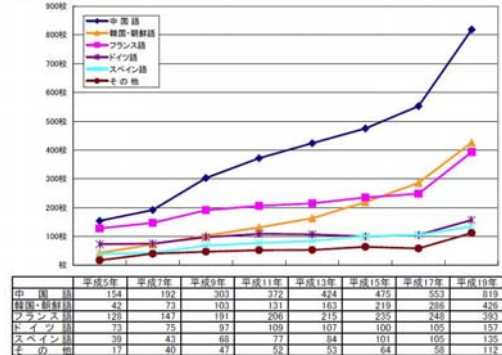
グラフ1 英語以外の外国語の開設について（文科省）

8 英語以外の外国語の開設について

(1) 開設学校数の推移



(2) 言語別の開設学校数の推移



2. 日仏高等学校ネットワーク Colibri の現状報告

2.1 国際交流の形態

現在、中等教育における国際交流の形態は、主に以下の4つがあげられる。

- ① 各校同士での姉妹校交流
- ② 日仏高校ネットワーク Colibri
- ③ Allons en France
- ④ 日仏両政府による招致事業（Colibri 加入校を対象としている。）

2.2 コリブリについて

日仏高等学校ネットワーク Colibri は、2002 年末にフランス大使館文化部の発案をもとに立ち上がった組織である。協力機関は、文部科学省初等中等教育局国際教育課、在日フランス大使館、仏教育省国際関係協力課（DRIC）、仏教育省管轄国際教育センター（CIEP）で、フランス大使館、フランス語教育振興協会、日仏経済交流会（パリクラブ）から財政的な援助を受けている。現在のコリブリ加盟校は日本側 29 校（第一外国語 5 校、第二外国語 24 校）となっており、ネットワーク発足当初から比べると 8 校増えている。一方、フランス側は 18 校となっており、こちらも 2 校の増加となっている。

以下が、現在の加盟校一覧である。なお 08 年度参加校には★印を付けた。日本側は 18 校、フランス側は 9 校の参加となった。

〔日本側加盟校〕

第一外国語 5 校（私立 3 校，公立 2 校）

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ★ 私立暁星高等学校（東京） | ★ 県立伊奈学園総合高等学校（埼玉） |
| ★ 私立カリタス女子高等学校（神奈川） | ★ 県立不来方高等学校（岩手） |
| ★ 私立聖ドミニコ高等学校（東京） | |

第二外国語加盟校 24 校（私立 9 校（+ 5 校），公立 15 校（+ 3 校））

- ★ 私立聖ウルスラ学院英知高等学校（宮城）
- ★ 私立渋谷教育学園幕張高等学校（千葉）
- 私立武蔵高等学校（東京）
- 私立神戸海星女子学院（兵庫）
- ★ 私立同志社国際高等学校（京都）
- ★ 私立甲南高等学校（兵庫）受け入れ校
- ★ 私立甲南女子高等学校（兵庫）受け入れ校
- 私立慶應義塾高等学校（東京）
- ★ 特別加盟校 甲南トゥレーヌ校
- 都立北園高等学校（東京）
- 都立上水高等学校（東京）
- ★ 県立横浜国際高等高校（神奈川）
- ★ 県立神奈川総合高等学校（神奈川）
- 県立和光国際高等学校（埼玉）
- 県立蕨高等学校（埼玉）
- 県立伊勢崎高等学校（群馬）
- 県立前橋西高等学校（群馬）
- ★ 府立松原高等学校（大阪）
- ★ 県立宝塚西高等学校（兵庫）
- ★ 県立尼崎稲園高等学校（兵庫）
- ★ 県立西宮高等学校（兵庫）
- ★ 府立千里高等学校
- ★ 県立弥栄高等学校（神奈川）
- ★ 都立杉並総合高等学校（東京）受け入れ校

〔フランス側加盟校〕

- ★ Lycée Ampère (Lyon)
- ★ Cité Scolaire Internationale (Lyon)
- ★ Lycée Collège Honoré Daumier (Marseille)
- Lycée privé Catholique St Joseph (Le Havre)
- ★ Lycée Clémenceau (Reims)
- Lycée Magendie (Bordeaux)
- ★ Lycée Racine (Paris)
- ★ Lycée Montebello (Lille)
- Lycée Paul Lapie (Paris)
- ★ Lycée Georges Honoré d'Estienne d'Orves (Nice)
- ★ Lycée Camille Claudel (Vauréal)
- Lycée Jules. Ferry (Coulommiers)
- Lycée St Germain-en-laye (St Germain-en-laye)
- Lycée Racroy St Léon(Paris)
- ★ LycéeWatteau(Valenciennes)
- ★ Lycée Laperouse (Nouméa)
- Lycée Le Verger, Sainte-Marie (la Réunion)
- Lycée Saint-Exupéry (La Rochelle)

コリブリによる留学制度は、初の「交換」留学制度で、留学生のホストファミリーになった生徒は原則として受け入れた留学生の家庭に留学することができる。また、ホストファミリーによる入学金、授業料の負担はなく、組み合わせや日程調整は日仏コリブリ代表間で行い、国際交流団体が行なうような仕事はコリブリ加盟校の担当教員が行なうため、安価で留学が可能であるという特徴がある。

この3年間での延べ人数は、日仏で200名を超えた。以下が3年間の推移の表である。

		2006	2007	2008
実施期間		10/30(31)～11/18	10/28～11/17	10/28～11/17
留学生数	合計	27	32	40
参加校	日本	8	10	18
	フランス	7	7	9
	合計	15	17	27

2.3 カリタスでの受け入れの例

10月28日から11月17日までの21日間に、アンペール高校（リヨン）1名、カミーユ・クロードル高校（ヴォレアル）1名、クレマンソー高校（ランス）2名の計4名を受け入れた。どの学校もそうだが、学校という組織として動かなければ積極的な国際化教育は難しい。

2.4 アンケート分析

フランス人生徒と日本人生徒を対象にフランス人留学生受け入れ後にアンケートを行なった。以下が、その項目である。

I 海外経験について	I Expérience du voyage à l'étranger
II 日本・フランスへの関心について	II Intérêts sur les deux pays
III 受け入れについて	III La vie au Japon
IV 留学について	IV Accueil de votre correspondant(e)
V 学校生活について	V La vie dans un lycée japonais
VI 家庭生活について	VI La vie dans votre famille d'accueil
VII 全般について	VII Généralités
VIII 保護者の方のご意見	

Iの海外経験については、日本人が34名中23名(67%)、38名中31名(81%)が「ある」と答えた。IIの日本・フランスへの関心については、日仏の生徒ともに、文化(日本4,7、フランス4,8)(5段階評価)、食文化(日本4,7、フランス4,7)に関心が高いようである。相手校の生徒を受け入れることによって、自国への関心が高まったかという質問に対しては、フランス人生徒よりも日本人生徒のほうが高まったと回答する者が多かった。(文化に対する興味の比較:日本人4,3、フランス人3,6)「受け入れてよかったか」という質問には、平均して4,7という数字が出た。以下、受け入れに関する日本人生徒のアンケート結果を載せておく。

[受け入れについて]

- 異文化の交流になったか. 4,5
- フランス語力を活かす機会となったか. 4,0
- フランス語力の程度を知る機会となったか. 4,4
- フランス語への学習意欲が高まったか. 4,8
- フランスやフランス語圏への関心が高まったか. 4,7
- 留学生を受け入れることで自分が成長したと思うか. 4,3
- 受け入れで望んでいたことが実現できたか. 4,0

[留学について]

- 留学するにあたり、安心感が増したか. 3,8
- フランス語力に対する自信がついたか. 2,9
- 留学に対するモチベーションが増したか. 4,4

[家庭生活について]

- 家族の絆は強まったと思うか. 4,1

また、交換留学では、保護者の協力が必要不可欠だが、彼らの回答は「受け入れてよかったか」4,8、「子供が成長したと思うか」4,5と、ともに高い評価となった。

2.5 中等教育における交換留学の意義

アンケートでは、「異文化交流を通じて自国の文化を改めて知った」「自分をサポートしてくれる家族の大切さ、人への感謝の気持ちを改めて感じた」といった意見が多く見られた。中等教育における語学教育は、単に語学力を高めるというだけでなく、「思いやりの心を育てる」「異なる文化背景の他者を認め理解する心を育む」という教育の真の目的を実現することではないだろうか。

2.6 Colibri の成果

Colibri の目的は、日仏の高校間の交換留学を中心とした交流を円滑にすることであるが、一方、コリブリは、組織化の難しかった日本での中等教育のフランス語教育全体の組織作りにもなっている。すなわち、第一外国語、第二外国語の違いも、公立、私立の違いもない組織を形成しているということである。例えば、2外の学校の受験指導に1外の学校が協力（模擬試験、受験情報）したり、テレビ会議をしたりと留学以外の国内の高校同士の交流の場ともなっている。Colibri による短期留学を経験した高校生は、大学での長期留学を希望するケースが多い。中等教育におけるフランス語教育の活性化は、高等教育も含む日本のフランス語教育全体の活性化に繋がっていくと言える。今後のフランス政府招致事業も、Colibri 加入校を対象としていることから、在日フランス大使館が Colibri を中心に中等教育におけるフランス語教育を拡大していこうという意図が伺える。

2.7 今後の課題

3年目を迎え、留学制度のマニュアル化、報告書の作成を継続して行い、Colibri 加盟校、協賛団体に配布をしていく予定である。新たな企画として、日仏教員の交流計画、国内での生徒間交流、各校国際課の担当者との会合、組織を使って共通教材の作成・共有などを予定している。

3. 多言語環境 e-Learning の推進についての報告

2年前から、パナソニック教育財団の助成を受けて、中等教育の多言語 e-Learning の推進を進めている。2年目の今年度は大きく進捗し、北は仙台、南は沖縄までの高校、大学の協力を得て、フランス語のみならず、韓国語、中国語、ロシア語の問題作成、実践を行うまでに至った。本アトリエでは、ワークショップの形で受講者が実際の問題作成まで行う予定であったが、時間と機材の関係で問題作成のデモンストレーションにとどめた。しかし、1名、高校で実践したいという参加者がおり、ワークショップの意義があった。今年も普及活動を進めていきたい。